

【インクルーシブカルチャースクール】

【一般社団法人MOTTO】

1. 課題と目標

課題と目標

□障がい者当事者の継続した運動機会や学習機会が少ない

(とくに日中通所施設終了後の時間。就学期には放課後等デイサービスが利用できたが成人期に該当するサービスはなく、日中一時支援やヘルパーサービスでは対応できていない)

障がい当事者、特に高齢期の健康のための活動や生活習慣病に対しアプローチするサービスやプログラムがない

令和5年度事業の効果と目標

□市民センターでの障害者の生涯学習推進及びインクルーシブ学習の推進

障害当事者中心に参加のできる講座(定期・継続的に通えるもの)の実施

初年度は運動プログラムに関してはInbody(体組成分)測定によりプログラム効果を筋肉量データなどで数値化します。

□事業V T Rの作成

2. 事業内容

事業の具体的な内容

□障がい者向けカルチャープログラム等の実施(アフターデイサービス)

平日16:00~17:30

□広報物作成

募集ホームページの作成→就労継続支援事業所に依頼作成済

VTR作成

2. 事業内容

既実施プログラム



- 第1回【運動】 Inbody測定、椅子体操、
フィットネストレーニングなど
- ・参加者2名(障がい者2名)内訳:成人2名
 - ・見学者3名(福祉施設職員2名・他団体1名)

2. 事業内容

5

既実施プログラム



第2回【音楽】音楽療育、椅子ダンス

- ・参加者：6名（障がい者5名）
- 内訳：成人4名 小学生1名 保護者1名
- 見学：1名（他団体1名）
- ボランティア：1名（青葉短期大学教員）1名

2. 事業内容

既実施プログラム



第3回【運動】

ピラティス、HIIT、レク

・参加者：8名（障がい者4名）

内訳：成人2名 幼児2名 保護者・兄弟（4名）



3. 付帯意見への取り組み（4項目）

□費用対効果を想定し講座の内容や対象者の精査

- ①講座にかかる費用を減らし送迎等でかかる費用を増やし、単独での参加が難しい障がい者の方を中心に募集
- ②講座回により募集対象の中心を変えての実施

□協働課や市民センターなどの関係者とのネットワーク構築

- ①事業の見学等を積極的に誘致
- ②協働課主催事業や市民センターで講座をおこなっている講師等への講師依頼（調整中）

□アンケートの作成

作成中

□広告作成物等への本制度名称・本事業の趣旨の記載

記載済。今後の作成物にも記載。

4. 協働課(教育局生涯学習支援センター)との連携と今後の展開

① 今までセンター利用がなかった方達の受け入れ

② 地域での当事者サポートの形の構成に向けての話し合い及び検証

③ カルチャースクールのインクルーシブ化

